

## 文部科学省「学校施設整備指針」 改訂のポイント

「新しい時代の学びを  
実現する学校施設の  
在り方について」

学校施設の在り方に関する調査  
研究協力者会議(令和4年3月)

- ・ 学習指導要領の改訂 (2017年)
- ・ GIGAスクール構想
- ・ その他社会の変化

文科省の対応

令和4年  
6月改訂

中学校施設整備指針  
小学校施設整備指針

## 「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」

### 第1章 新しい時代の学びの姿

#### (1) 社会情勢の変化

- ⇒社会の在り方が劇的に変わる「Society 5.0時代」の到来
- ⇒新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

#### (2) 「令和の日本型学校教育」の姿

学校のICT環境が整備され、1人1台端末環境のもと、全ての子供たちの可能性を引き出す、**個別最適な学びと協働的な学び**の一体的な充実

#### (3) 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた改革の方向性

- ・新学習指導要領の着実な実施
- ・少人数による指導体制の整備
- ・多様な教育的ニーズのある児童生徒への対応
- ・学校における働き方改革の推進
- ・9年間を見通した義務教育の在り方
- ・GIGAスクール構想、ICTの活用
- ・地域社会や関係機関等との連携・協働

## 「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」

### 第2章 学校施設の課題

#### (1) 新しい時代の学びへの対応の必要性

- ポストコロナ時代における学校施設という実空間の役割
  - ⇒**児童生徒にとって安全・安心な居場所**を提供するという福祉的機能、**社会性・人間性を育む**社会的機能を有するなどの学校の持つ役割・在り方を再認識
  - ⇒ポストコロナ時代において、子供たちがともに集い、学び、遊び、生活する**学校施設という実空間の価値を捉え直す必要**
- 学びのスタイルの変容への対応
  - ⇒ICTの活用などにより、学級単位で一つの空間で**一斉に黒板を向いて授業を受けるスタイル**だけでなく、**学びのスタイルが多様に変容していく可能性が拡大**
  - ⇒**空間・時間を超えて、様々な学習リソースに非同期にアクセスして学ぶことができる**など「非同期・分散」した学びのスタイルが広がり、**これまでの「同期・集合」した学びのスタイルと往還する**場面が展開されていく可能性も拡大

## 「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」

### 第3章 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方

新しい時代の学びを実現する学校施設の姿(ビジョン)

## Schools for the Future

「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体を学びの場として創造する

「未来思考」の視点

- ① 学校は、教室と廊下それ以外の諸室で構成されているものという**固定観念から脱し、学校施設全体を学びの場として捉え直す**。廊下も、階段も、体育館も、校庭も、あらゆる空間が学びの場であり、教育の場、表現する場、心を育む場になる。
- ② 教室環境について、**単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な活動に柔軟に対応していく視点（柔軟性）をもつ**。
- ③ 紙と黒板中心の学びから、1人1台端末を文房具として活用し多様な学びが展開されていくように、学校施設も、**画一的・固定的な姿から脱し、時代の変化、社会的な課題に対応していく視点（可変性）をもつ**。
- ④ どのような学びを実現したいか、そのためにどんな学び舎を創るか、それをどう生かすか、**関係者が、新しい時代の学び舎づくりのビジョン・目標を共有する**。

## 学校施設整備指針（令和4年6月改訂）

### 第3節 学校施設整備の基本的留意事項

#### 1 未来思考の視点の必要性

- (1) 学校施設整備に際して、児童がともに集い、学び、生活する実空間として、また、他者と協働し、直面する未知の課題に対して学び合い、応え合う共創空間として、**関係者が、新しい時代の学び舎づくりのビジョン・目標を共有しつつ、未来思考をもって実空間を捉え直すことが重要である**。
- (2) ICTの活用などにより、学びのスタイルが多様に変容していくこと等を踏まえ、**学校は、教室と廊下それ以外の諸室で構成されているものという固定観念から脱し、学校施設全体を学びの場として捉え直すことが重要である**。
- (3) 教室環境について、**単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な活動に柔軟に対応していくことが重要である**。
- (4) 紙と黒板中心の学びから、1人1台端末を文房具として活用し多様な学びが展開されていくように、**学校施設も、画一的・固定的な姿から脱し、時代の変化、社会的な課題に対応していく可変性が重要である**。

「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」より



教室空間において、紙と黒板中心の学びから、1人1台端末を文房具として活用し多様な学びが展開されていく姿

「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」より



教室空間と隣接する多目的スペースとの連続性・一体性を確保し多様な学習活動へ柔軟に対応していく姿

「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」より



学校施設全体を学びの場として捉え、階段状の空間を、ステージやプロジェクタ等を備えた発表・表現の場としていく姿

「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」より



学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせて読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・コモンズ」としていく姿

「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」より



映像編集やオンライン会議のための「スタジオ」、情報交換や休息ができる「ラウンジ」など機能性の高い執務空間としていく姿

「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」より



地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動ができる共創空間としていく姿

「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」より



他の公共施設（図書館等）との複合化・共用化を図り、多様な「知」を集積する共創空間としていく姿